

への 市議会だより

議員定数特集号

平成21年6月1日発行
発行 二戸市議会
編集 二戸市議会だより
編集委員会
印刷 福岡プリント社

市議会のホームページアドレス
市議会のメールアドレス

<http://www.city.ninohe.iwate.jp/gikai/html/index2.html>
gikai@city.ninohe.iwate.jp



二戸市の議員定数

現在の定数は、24人です。
(地方自治法上の上限26人)

※合併（平成18年1月）前の議員数は、旧二戸市20人、旧浄法寺町14人でした。

＝ 議員定数を考える！！ ＝

平成20年9月1日に「議員定数問題を考える会」が市民文化会館で開催され、提言者から色々な意見が出されました。

「議員定数問題調査特別委員会」の主な活動

○平成20年3月18日

議員定数問題調査特別委員会設置

・市議会議員11人による特別委員会を設置

○平成20年9月1日

「議員定数問題を考える会」開催

（市民文化会館中ホール）

・提言者11人による意見発表

○平成21年1月30日

議員定数問題調査特別委員会全員協議会の開催

（市役所議場）

・各議員が、定数問題に関する意見を発表

今後の二戸市議員定数について検討

議員定数に対する市議員の意見を紹介します

二戸市の議員定数は、合併後に初めて行われた選挙において定数が24人となりました。

その後、議員より議員定数について検討しようという意見が出され、平成20年3月に市議員で構成する「議員定数問題調査特別委員会」が設置され、検討してまいりました。

本特集号では、平成21年1月に開催された調査特別委員会での各議員の発言要旨をご紹介します。

市議員の意見

(議席順)

◎議員定数について

- ① 私の考え
- ② 理由、説明等

※合併前

- ・旧二戸市 20人
- ・旧浄法寺町14人
- ※現在の定数 24人
- (平成19年4月選挙後)

次回までは現状維持その後削減

田村 隆博 議員

①議員定数は、次期選挙までは現状維持の24人とし、その後については削減ありきと考える。

②合併により新市の面積が拡大し、地域で抱える問題が多種多様化していることから、現段階での削減は見合わせるべきと考える。今、議員に求められているのは、数の削減ではなく資質の向上、より迅速な対応にあると思う。

削減すべき

小野寺 仁美 議員

①議員定数は、20人でも十分可能である。

②これまで数回にわたって定数削減がなされてきたが、行政と議会に携わった者として議案審議等に大きな支障があったとは思えない。

地方分権が推進される中で、行政と議会の均衡に配慮すべき。地方議会としての品格と責任等に配慮すべし。

削減すべき

小笠原 清晃 議員

①議員定数は、削減すべきと考える。

②理由は、広域合併を視野に全市的・広域的な議会活動が必要である。

そのためには、専任専門的で、副業的な活動であってはならない。

議員削減と同時にやる気のある新人候補が出やすい、待遇改善等の環境を整え質の高いやる気のある議員をそろえる必要がある。

現状維持

新畑 鉄男 議員

①定数問題については、現状のままでもいいと考える。

②理由としては、合併してまだ3年である。新市総合計画の進捗率など現議員数で見極める必要があるため。

新市になって、まだ1回しか選挙を行っていないので、現定数で、もう少し続けてみてほしいと思う。広く市民の声を反映させるために現状維持で良い。

現状維持

滝沢 正一 議員

①定数問題については、現状の24人で良いと考える。

②旧二戸市20人、旧浄法寺町14人、合計34人から24人になったこと。また、総合支所の職員の大幅な減少と機能の低下が不安である。

新市建設計画の着実な推進、両市市民の一体感の醸成、広大となった地域住民の声を行政に反映させることが必要である。

削減すべき

鷹場 美千雄 議員

①議員定数は、社会の動向を見た場合、基本的には減らすべきものと考えます。

②しかし、先の合併選挙で一気に10人ほど減らした経緯もあり、市民の方々の意見も現状維持が多かったような気がする。

二戸市と同程度の人口、面積、産業構造などできるだけ似通った自治体を全国から抽出して、色々分析するべきだと考える。

現状維持

田口 一男 議員

①定数問題については、現状維持または兼務の禁止

②合併時に見直したばかりであり、時期尚早である。

市の財政削減のための定数削減は短絡的である。市民の声は「議員活動が見えない。もっと市民の声を議会に反映するように、議員活動に専念してほしい。」ということなので、削減よりも議員の兼務を禁止すべきである。

削減すべき

田代 博之 議員

①議員定数を20人に削減するべきと考える。

②平成の大合併以後、新市町村の議員は激減したし、自立の道を選択した市町村でもぎりぎりまで削減している。しかし、状況に好転の兆しが見えないなか、我々議員も手をこまねいていることは許されない。

議会改革を進め、懇談会や意見交換会など議会側から住民地域に入っていくべきが届かないということはなく、議員も現状把握、施策の必要性が見えてくると思う。

削減すべき

國分 敏彦 議員

ある立候補者が出ると思う。期待をしたい。

①議員定数は、削減するべきであると考える。

②私は、「議会改革・議会活性化そして少数精鋭で質の高い議会を目指す」ことを基本的な考え方として公約している。これからの議員には市政全般に見識や課題を持ち、政策本位の議員であることが求められ、市議会では明確な理念と政策実現が求められている。厳しい財政運営の中では定数削減により身を削ることも当然と考える。

現状維持

佐藤 利男 議員

①現状維持

②二戸市と浄法寺町が信頼を持って合併され、プロジェクト等の計画も取り込まれました。せめて、平成27年頃までは、現状維持でいきたいと思う。

議員の報酬を削減されても良いと思う。

議員を削減して、扉を狭くするよりも扉を広くして、広域合併を目指し、環境作りが大事ではないか。

現状維持

畠中 泰子 議員

①議員定数は、現状24人の定数を維持すべきである。

②議会の機能は、市民に代わって市の重要な意志や進路と運営の基本を決定すること。

一定の定数が確保されなければならず、行政の簡素合理化と同じ観点で論じてはならない。10年で人口6%減、議員は44.2%も減った。果てしない定数削減は、市民と議会のパイプを細くし自治体を遠ざける。

今日の危機打開のために行政と議会の両輪の奮闘こそ求められている。

削減すべき

米田 誠 議員

①議員定数は、現状の24人から18人に削減すべきと考える。

②財政難の折りでもあり、議員自ら財政に協力すべき。

4市町村の合併を目指すことを目標とすること。

議員が少なくなっても議会運営は大丈夫である。

最後に、将来を見据えた当地にあった議会活動と意識改革が必要であると考えている。

削減すべき

菅原 恒雄 議員

①議員定数は削減すべき。6人減の18人と考える。

②少数精鋭で少ない人数で優れた議員が二戸市を考えるべきである。削減しても現状からして地域の反映は十分でき、良心ある議員が携わるならば今以上になる。

削減した人数分の経費削減分等々を考慮して報酬をアップするならば、若いそしてやる気の

削減すべき

岩崎 敬郎 議員

①議員定数を削減するべきであると考える。

②今の時代は、全市民的な視野をもった方が議員となるべきで、定数を削減すれば、有権者はより厳しい目で選択し、より広範囲、あらゆる市民と接する事が重要となるからである。なお、報酬は引き上げ、誰でも議会に出て活躍する環境を整えることが必要であると考える。

削減すべき

大沢 孫吉 議員

①議員定数は、削減すべきと考える。具体的には、2人を削減し、22人とすべきである。

②理由は、有権者早名に対して、議員の数を1人の割り方で良いと思う。

市財政難の折りであることから、2人減の22人の議員数で十分市民の負託に込めることが出来ると思いい削減すべきと考える。

削減すべき

西野 省史 議員

①私は、大所高所から考えると議員定数削減は必要と考える。

②現在の経済状況を鑑みると行政改革のためには、議員自身を削り、行政側につかりとした行政改革を迫るべきである。また、市民の声は定数削減である。現在の24人ではなく合併前の20人より減らすべきの声が大きく、6人の議員を削減し、定数18人とすべきである。

現状維持

佐藤 純 議員

①議員定数は現状維持でよいと考える。

②なぜならば、市民の支持を得、現在24人の議員が新市建設計画、行財政改革、2大プロジェクト、新設小学校など多くの重要課題に取り組んでいる最中である。

このような中、我々は議員としての資質の向上、行動をしつかりやるのが先決である。その上で、議員報酬や政務調査費などの経費の節減を図ることは大切である。

削減すべき

田中 勝二 議員

①議員定数は、現行の24人から22人位に削減すべきだと思う。

②理由は、旧二戸市、旧浄法寺町のバランス、及び広く市内全般の声を市政に届けていくための色々な情報網も発達しているの、2人減だけであれば、十二分に市政に声が届くと思う。

削減すべき

佐藤 正倫 議員

①議員定数は、削減すべきである。

②理由は、合併後に段階的に減らすという協議がある。

現在は情報関係や交通手段の発達により議員の活動範囲が拡大しており、また、職員の地区担当制ができて市民の声も届くようになった。行財政改革の推進は必要であり、議会においても議員自ら削減し少数精鋭並びに、議員の資質向上に努め、行政に行革を迫るべきである。

削減すべき

田口 一 議員

①議員定数は、可能な限り多くの賛同の下、減すべきと考える。

②昨今の厳しい財政状況の中、行政は行財政改革を推進しつつも住民サービスの充実に努めている。車の両輪として議会が範を示せる唯一の財政改革は議員の定数削減である。

但し、議会制民主主義の根幹に係わる問題ゆえにパフォーマンスは厳に慎むべきである。

現状維持

佐藤 文勇 議員

①議員定数は、削減すべきではないと考える。

②住民が安心して暮らせる環境づくりを努めていくために、現状の議員定数で二戸市民の声を行政に届け、住民の意思をより多く反映させるべきだと思う。議員定数問題を議論するとき

は、議員報酬も同時に考えていかなければ市民の理解は得られないと思う。

現状維持

山本 敏男 議員

①定数問題は、現定数を基本とすべきである。

②閉会中においても市民の声を吸い上げ議会での代弁の役割は大である。

二戸広域の今後の合併を実現するために定数は慎重に扱うべきである。

定数も重要ではあるが、合併での諸課題解決が先である。若い候補者が、議会に参加するためにも現定数は妥当と思う。

削減すべき

及川 正信 議員

①議員定数を削減すべきと考える。

②今最も必要なのは、議員の資質向上であって、量より質を重視すべきである。そうすれば削減しても議会機能は果たされる。合併協議において、次の選挙は定数減を考えようとの意見で一致していた。

無作為抽出で、百人の市民から電話で意見を聞いた結果は、82%の方が「削減すべき」であった。

現状維持

鈴木 忠幸 議員

①議員定数は、当面現状維持すべきと考える。

②合併して3年経過しない中で定数論議は時期尚早。議員の定数は、議員が判断すべきことではなく、市民の判断に委ねるべき。

特別委員会でも市民の代表の方々の意見を聞く場を持ったところ賛否両論あったが、浄法寺地区代表の方々は全員現状維持の意見であった。

市議員の意見結果

- 削減すべき 14人
- 現状維持 9人
- 次回までは現状維持 1人
- その後削減 1人

市議会の今後の動き

この定数問題については、今後も市議会でも議論を重ね、協議してまいります。今後の大まかな動きは、次のとおりです。

- ◎調査特別委員会が、これまでの調査活動結果を取りまとめ、議長に報告書を提出
- ◎議長が、報告内容を確認のうえ、定数をどうするかを議会に諮り、方針を決定
- ◎決定した議員定数により、次回選挙を実施